

ウダヤナ大学への協定留学 月例報告書（2023年3月分）

留学先大学：ウダヤナ大学人文学部日本文学学科

氏名：森下千裕

◎大学に関して

3月からは大学の後期授業が始まりました。私の所属する日本文学学科では、後期になると、より専門的に日本語を学ぶ科目（文法や会話など）が増えました。そのため、私は数少ない日本の文学に関する講義を選択しました。そして驚くことに、この後期から日本文学学科のキャンパスが、現在のデンパサールキャンパスから17キロ離れた南バリのジンバランに移転すると後期開始二日前に正式発表がありました。とはいえ、一か月ほど前から噂にはなっており、旧キャンパス付近に住んでいた学生たちは噂をもとに新キャンパス近くに引っ越しを初めていました。私の下宿先は、大学への通学を考え、旧キャンパスから徒歩圏内にありますが、同時に課外活動であるバリの芸能を習得する拠点もその近くであるため、引っ越しは断念しました。そのため、バイクタクシーや路線バスを使って通学をせざるを得なくなりました。バイクタクシーでは、片道40分ほどかかり、往復では日本円で900円ほどかかりますが、路線バスは大学の学生証があれば無料で乗車できます。しかしバスに乗っているのは、ほとんどがウダヤナ大学の学生であり、まるで日本の通勤電車のラッシュ時のように、つり革につかまってほぼ1時間立ったまま乗車しなくてはなりません。バリ島での生活において900円は大金です。一方でバスは無料であっても非常に体力を消耗するため、毎回通学方法に迷っています。しかし新キャンパスは綺麗でお手洗いや清潔であるため、心地よく勉強をすることができています。

◎静寂の日 ニュピ

この3月に、太陰暦であるサカ暦の新年であるニュピという行事がありました。この日は、インドネシアの国民の祝日ですが、バリでは基本的に一切の外出と火の使用、明かりの使用が禁止されています。なおこの日は、空港の離発着を一切禁じられていることから、バリの出入国者は一切ありません。また数年前からはインターネットの電波も止められるようになり、ネットを通じての娯楽も基本的には禁じられています。さまざまな過ごし方がありますが、バリの人々は一般的には実家に帰ったり、家族で集まったりして静かに一日を過ごします。私は以前、ニュピをバリの人々とともに経験していますが、今回はホテルでこの一日を過ごしました。ホテルでも電気の使用の制限はありますが、海外からの観光客もいることからWIFIを自由に使うことができました。またホテルにはバリの人々も宿泊しており、バリの新しいニュピを過ごすライフスタイルを垣間見ることができました。

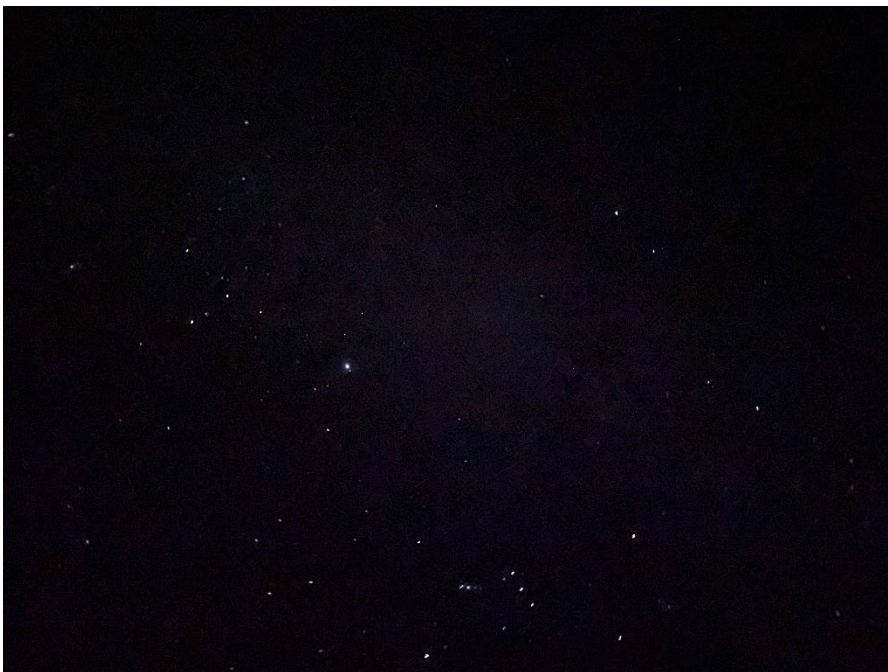
このニュピは午前6時から翌日の午前5時59分のまる一日続くことから、夜になると街の明かりはすべて消え、普段みることのできないような美しい星空を楽しむことができます。今回も晴天に恵まれ、天の川や流星まではっきり見ることができ、ひと時ですが夜空を堪能することができました。基本的にこの日は労働や学習も禁止されているため、普段の留學生活の学習に対する焦りや不安を忘れて、心身ともに休むことができました。私がそうであったように、きっとバリの人々も同様にニュピを経て、新たに気持ちを入れかえて、翌日から新しい日常生活に戻るのだらうと感じました。



↑ウダヤナ大学の校章が入った割れ門
一般道に設置されており、門を抜けると
道沿いにさまざまな学部のキャンパスが広がります。



↑キャンパス前のバス乗り場
高床バスのため、乗り場も高さがあります。



↑ニュピの日の夜空
外出は禁止のため、ホテルの敷地内から撮影しました。
肉眼では、天の川まではっきりと楽しむことができます。